

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		平成31年度（令和元年度）第1回総合教育会議
開 催 日 時		令和元年7月30日(火) 午前10時45分から 午後 0時17分まで
開 催 場 所		福津市役所 別館1階大ホール
委 員 名		(1) 出席委員 柴田教育長、青木委員、 藤井委員、半澤委員、今村委員
所 管 課 職 員 職 氏 名		原崎市長、松田副市長、本多理事兼まちづくり推進室長、榊まちづくり推進室参事、辻地域振興部理事兼郷づくり支援課長、榊教育部長、重富教育部理事兼教育総務課長、神山学校教育課長、八尋郷育推進課長、伊澤指導主事兼教育指導係長、笹田総務企画係長、松本
会 議	議 題 (内 容)	「学校、家庭、地域の総力をあげた豊かな心、学力、体力の育成について」 「学校と郷づくりのパートナーシップの構築について」
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非 公 開 の 理 由	
	傍 聴 者 の 数	1 名
	資 料 の 名 称	
会 議 録 の 作 成 方 針		☒ 録音テープを使用した全文記録 ☐ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		

1 開会の宣言

榊参事：おはようございます。ただいまより、平成31年度（令和元年度）第1回福津市総合教育会議を開会いたします。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、まちづくり推進室の榊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、お手元にお配りしております会議次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

2 挨拶

榊参事：まず初めに、原崎市長から御挨拶をお願いいたします。

市長：皆様、おはようございます。御挨拶を申し上げます。

令和元年度の第1回の総合教育会議でございます。本日もお忙しい中、教育委員の皆様、御出席賜りまして、ありがとうございます。

私自身、教育総合会議は本日で5回目か6回目になるかと思います。思い出しますと市長就任時の平成29年度は、教育大綱をつくるということで、私なりの重点施策、国際交流であったり、対話であったり、それから環境教育、自然環境の保全等をコミュニティツールを通して行ってきました。やはり福津市ならではのよさが環境であり、そして、これからますます重要な視点が国際交流だと思います。交流するだけでなく、しっかりと世界に羽ばたく福津市のたくましい人材を育てるために、いろいろな外国と触れ合う機会をお願いいたしております。そして何よりも、対話を重視した教育環境の整備並びに政策ということを教育大綱の中でお願いしたわけでございます。

国際交流につきましては、郷育推進課にルーマニアの柔道のキャンプ地誘致に動いていただきまして、既に地元の子も達がルーマニアの選手達と交流をしております。平成29年7月には、新原・奴山古墳群が世界文化遺産にも登録され、子ども達に喜んでいただきました。子ども達は、これを世界に発信するために、概要版を英語で作りたいというような、いろいろな夢を語っていました。

そして、平成30年度は教育大綱に基づきまして、総合教育会議の場でも重点施策・重点項目について、協議してまいりました。

そして本日は、その残りました項目の協議内容です。残りましたけれどもこのコミュニティ・スクールの充実については大変重要な、ある意味最も重要な項目だと思っています。学校を核とした地域づくり、地域と連携した学校づくり、といったコ

コミュニティ・スクールの取り組みで、本市は様々な所から視察に訪れられるほどのコミュニティ・スクールの先進自治体となっております。教育委員会の皆様には、本当に感謝申し上げます。しかしながら、現在のこのコミュニティ・スクールの形を完成形とするのではなく、常に先進自治体であるからこそ、福津市のコミュニティ・スクールをさらに推進していく必要があると思っております。

そういうわけで予算査定を行います市長部局といたしましても、地域コーディネーターの設置を行なったり、コミュニティ・スクールとは直接の関係はないかもしれませんが、特別教育支援員の配置であったり、子どもたちが増えている本市ならではの取り組みを予算化しております。昨年度は津屋崎中学校区を初め、文部科学大臣賞などたくさんコミュニティ・スクールの取り組みに賛同いただきました。これからもその方々の取り組みやアドバイス、御協力が大変教育環境の整備に必要であると、そんなような認識でございます。

お配りしている8月1日の広報ふくつについてでございます。御承知かと思いますが、福間南小学校の日蔭野地区にございます上西郷川の取り組みでございます。事業としては、人工的な全く普通の川を、かつての自然豊かな川に戻し、魚を戻し、そして、新興団地であります日蔭野だからこそ、子どもたちが自然と触れ合いながら、川とともに、お魚とともに、植物とともに、成長していく、そういう取り組みを特集させていただいております。

この広報誌の7ページに、SDGs未来都市に選出されまして書いております。新聞等でも報じられましたが、令和元年7月1日に正式に今年度のSDGs未来都市として選定を受けました。全国の都道府県を含めまして約1,800の地方自治体がございます。昨年度からこのSDGsの選定制度を内閣府が中心になって進めておりまして、こちらに昨年も応募いたしておりました。今年度、晴れて31自治体の一つに福津市が選ばれました。私も上京をいたしまして、内閣総理大臣並びに地方創生担当大臣からも、じきじきに認定証並びにSDGs未来都市の役割として期待されることについて、お言葉を頂戴したところでございます。その他どこの自治体が選ばれたかという詳しいところは、内閣府のホームページ等にも紹介されておりますし、認定式の模様等も写真で掲載されておりますので、見ていただければと思います。

何より、この福津市がSDGs未来都市に選ばれましたのは、コミュニティ・スクールの取り組みを初め、自然環境の保全や歴史文化、そして郷づくり等々、市民のそれぞれの団体が市民協働で、経済を循環させた持続可能なまちづくりをこれまで福津市が営々と取り組んできたことが評価されたということ

が理由だと考えています。今後ますます日本の地方自治体の一つのモデルとなるような持続可能なまちづくり、そういう認定を受けたわけであります。多くの市民の皆様と共有し、喜び合い、そして今後ともますます市民の皆様のお力もお借りし、教育委員会と一緒にこれから持続可能なまちづくりを進めていく必要があると思います。

その取り組みの一つの象徴的な例が、この上西郷川の取り組みでございます。上西郷川を日本一の郷川にする会というのがございますが、先週の土曜日にも200人以上の子どもたち、そして保護者さんたちが集まりました。九大の島谷先生の研究室並びに郷づくりの環境保全の会、学校、保育園、幼稚園も一緒になりそのような行事が行われました。大変多くの方が参加されて、20種類以上の魚がとれまして、子どもたちは、身近に豊かな自然並びに魚がいるということを確認できたと思います。

その翌日の日曜日には、西郷川で、福間小学校校区の子どもたちを中心に、学校や郷づくりや企業、大学の連携によりまして、川の学習を行ったところです。

どちらもそれぞれの団体がSNS等で発信されておりますけれども、土曜日と日曜日に続けてそれぞれ別々の団体が、子どもたちを連れて川に触れさせる取り組みがありました。そういうコミュニティ・スクールの、SDGsの考えにのっとった取り組みが、子どもやPTAだけではなく、地域の力や企業の力、大学と連携いたしまして、行われたことを御報告させていただきたいと思い、提示させていただきました。

また、7月1日にSDGs未来都市に選定された後、この教育委員会といたしましても、3中学校の生徒会の役員中心に生徒に集まっていたきまして、未来の福津市のこれからのまちづくりに向けていろいろ勉強し、構想を持ち、最終的には私市長のほうに、これからのまちづくりについて未来ビジョンを提示いただくカリキュラムを3月からスタートさせていただいております。これには感謝しているところでございます。SDGs未来都市に選定された後、福間中学校独自のコミュニティ・スクールの取り組みといたしまして、SDGsとは何だろうというところから始めまして、中学生の話し合う時間をとっていただいて、普段様々なボランティア活動を中学校の生徒が行っておりますが、その中で見えてきた未来像について夏休みを通して考えていただいて、そして夏休みが明けた後、またそれを集約して、私市長のほうに政策提言を行っていただきます。これにつきましても、SDGsの持続可能なまちづくりに資する提案等がなされることが約半年後にあることを大変楽しみに期待しているところでございます。

色々申し上げましたのは、これらの取り組みがコミュニ

ティ・スクールのこれまでの成果だと私は思っております。

本日は本市が目指します新しい第2次の基本構想、総合計画並びにSGDs未来都市としての役割・責任を教育委員さんとも共有させていただいて、さらなるコミュニティ・スクールの推進に御尽力、御協力並びに貴重な御意見を賜りたいと思い総合教育会議を開催させていただいております。何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。

榑参事：ありがとうございます。本日の協議日程ですが、会議次第をご覧ください。

福津市教育大綱における目標から「学校、家庭、地域の総力をあげた豊かな心、学力、体力の育成について」と「学校と郷づくりのパートナーシップの構築について」をテーマに、市長と教育委員の皆様協議をしていただきたいと思いますと考えております。時間は1時間30分をめぐりて予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会議参加メンバーは、次第及び席次表のとおりでございますので、執行部の自己紹介は省かせていただきます。事務局含め市執行部には、最初に発言される前に所属部署とお名前を言ってください。

これから先の協議事項は、市長の進行でお願いいたします。

3 協議 「学校、家庭、地域の総力をあげた豊かな心、学力、体力の育成について」

「学校と郷づくりのパートナーシップの構築について」

市長：それでは、協議に移らせていただきます。

今年度第1回の総合教育会議となります。平成27年度より平成29年度までは、福津市総合計画の施策の検証や、福津市教育大綱の策定についての審議を行ってまいりました。

平成29年度末に策定した福津市教育大綱では、「福津を愛し、人との関わりを大切にして、未来に向けて学び続ける人づくり・まちづくり」を基本理念とし、9つの目標を掲げております。

この教育大綱の基本目標より、平成29年度の第3回目の会議では、「国際交流・グローバル人材の育成について」と「環境保全を進めるための人材育成について」を協議し、平成30年度の第1回会議では、「次世代を見通した地域の将来を担う人材育成」について、第2回の会議では、「子どもの育ちを支える家庭・地域の教育力向上」と「次世代育成支援による子ども・子育て支援の環境づくりの充実」について協議いたしました。第3回の会議では、「地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実」、「文化・健康・スポーツや絆づくりによる市民生活の向上」をテーマとし、協議をおこないました。

そして令和元年、今年度第1回の本日の会議では、福津市教育大綱における9つ基本目標の中から、「学校、家庭、地域の総力をあげた豊かな心、学力、体力の育成について」、そして「学校と郷づくりのパートナーシップの構築について」をテーマに協議を行いたいと思います。

- ・子どもたちの豊かな学びと育ちを支えるコミュニティ・スクールの更なる充実
- ・子どもたちが安心・安全な教育環境の整備、充実、
- ・学校と地域の連携の促進【児童みまもり隊、あいさつ運動、地域パトロール、交通安全教室、避難訓練への参加協力、遠足への参加協力、運動会への協力、文化祭への協力や参画、中学生ボランティア活動の受入れ、学校運営協議会への参画、地域学校協働活動推進員（地域コーディネータ）、郷育カレッジ講座の実施、松林保全活動による環境学習、郷土芸能育成等】

こちらの視点から本日は協議を行いたいと思います。

本市の教育は、市民が学校運営に参画し、学校、家庭、地域が連携・共働して子どもたちの学びや育ちを支えるコミュニティ・スクールを基盤として取り組んでいます。子どもたちがこれからの社会を生き抜くためには、習得した多くの知識と技能を活用して、新たな考えや方法などを創造していく力を育むことが必要と考えます。

早速でございますが、協議、意見交換に入らせていただきます。どのようなことでも結構でございますので、教育委員の皆様から御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

半澤委員、よろしくお願いします。

半澤委員：これまで福津市が進めてきているコミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域が連携して共働して、社会総がかりで子どもたちを育てるということで、福津市の子どもたちは学校と家庭だけでなく、地域の大人とたくさん関わっていただきながら育っていることと思います。

福津市では中学生のボランティア活動が増えているということは聞いていますが、これまで取り組みを進めてきて、目覚ましい効果というまではないのかもしれませんが、「どのような効果があったのか」ということについて、改めてお聞きしたいと思います。

例えば学習面では、子どもたちの学習の状況や学力の変化について、生活面では、子どもたちの生活の様子や地域とのかわり、保護者の意識はどのように変わってきているか等です。

また、進めていく上で出てきた課題を解決することや、さらにその効果を深めるためにはどのようにしたらよいか等を考える必要があるのではないかと感じます。

市長：それでは、ただいま半澤委員から御意見いただきましたコミュ

ニティ・スクールの取り組みにつきまして、関係部署より回答をお願いします。

それでは、学校教育課からお願いします。

伊澤指導主事：学校教育課、伊澤と申します。よろしくお願いいたします。

福津市では、小学校でふるさと福津のよさを学ぶ学習を通して、地域への愛着を育てる教育、中学校では地域貢献活動を通して地域の課題解決に向けた教育ということを明確にして、昨年度からは発展期としまして、地域・学校協働活動を取り入れたコミュニティ・スクールを推進しております。

御質問の学習面の変化としましては、多くの機会に地域の方々をG T（ゲストティーチャー）として招いて地域の方との触れ合い等、体験を伴った多様な教育活動というものを通してコミュニケーション能力や課題をもって解決しようとする力などを育むことができていると思います。

例えば神興小学校や勝浦小学校では、米づくりをして収穫したお米を文化祭で販売し、そのわらを使ってしめ縄づくりをしたり、津屋崎小学校では津屋崎山笠について学習して自分たちで山笠をつくったり、実際に4月にありました、よっちゃん祭で、その山笠を昇いて披露したりということをしております。

中学校におきましては、子どもたちが地域の環境について考え、松林清掃を郷づくりの皆さんと協働する活動を行ったり、今年はトークフォークダンスを市内3校全ての中学校で行ったりする予定でございます。

このような地域の人、物、事に関する系統的な学びというのは、豊かな人間性を育み、知識だけでなく、たくましく生きていく力も身につけることができると考えております。

次に、生活面の変化としましては、中学生の地域貢献ボランティア数の増加が挙げられます。8月4日に福津市納涼花火大会がございますが、その翌日の早朝6時半から行われる中学生対象のごみ拾いでは、今年も約800名の中学生が参加するよう希望してくれています。

このように地域貢献をしようとする中学生が多い背景には、やはり小学校段階でしっかりと地域のよさを学んで、地域への愛着を持って成長してくれているからであると考えております。

進めていく上での課題につきましては、地域への周知です。コミュニティ・スクールについては、御理解いただいている地域の方が多くなっていると思いますが、地域学校協働活動については、まだまだ啓発ができておらず、一緒に連携・協働いただいている郷づくりの皆様にも、さまざまな機会にお伝えしていかなければならないと考えております。

さらに深めるためにはどのようにしたらよいか、という御質問ですが、現在、福津市では持続可能なまちづくりを推進して

おります。コミュニティ・スクールも目指すところは同じであると考えております。このようなまちづくりを推進するために、中学生が学校を卒業した後もふるさと福津を大切にして、地域で活躍できるような若者を育成するために教育施策を考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

半澤委員：ありがとうございました。先ほど、進めていく上での課題で、一般の方々への周知についておっしゃっていましたが、現在のコミュニティ・スクールについての周知、発信はどのような方法でなされているのでしょうか。

伊澤主事：周知ということにつきましては、新聞報道などで子どもたちの取り組みを取り上げていただいておりますが、もっと広く地域の方に、さまざまな取り組みを知っていただきたいと思いますと思っております。

昨年度から福津市の中央公民館におきまして、コミュニティ・フェスタというものを開催しております。平成29年度まではコミュニティ・スクール推進のために学校や保護者、学校運営協議員さんを対象としたコミュニティ・スクールフォーラムというものを開催しておりました。しかし、関係者の中で完結してしまうというところがありましたので、昨年度より、子どもたちや地域コーディネーターさんがステージに上がって、自分の学校のコミュニティ・スクールの取り組みや社会教育で行っているアンビシャス広場、子ども会活動などについて発表する場を設けるようにしております。今年度は令和2年1月26日に開催する予定です。現在、学校教育課と郷育推進課で進めておりますので、どうぞ御参加いただけたらと思っております。

半澤委員：ありがとうございました。

市民の皆さんにもっと知っていただけるような情報の発信が広がるとよいと思います。また、今後も将来に向けて持続していくために、学校・家庭・地域の関わる人たちに無理のないような工夫や仕組みが必要かと思えます。福津市の子どもたちや市民の皆さんのために、福津市のコミュニティ・スクールがより深まることを願っております。

市長：わかりました。他の委員さんはどうでしょうか。

今村委員どうぞ。

今村委員：学校と地域のパートナーシップということで、コミュニティ・スクールを進めていると思いますが、学校と地域を結びつける地域コーディネーターの役割は非常に大きいと思います。

この地域コーディネーターの制度に対しての課題等はあるのでしょうか。私は神興小学校の校区内に住んでいますので、ボランティアで丸つけ先生等に行ったりしています。その最初の打ち合わせのときは、必ず地域コーディネーターの方がいらし

て、説明もしていただきます。非常に良い制度だと思いますが、負担もあるかもしれません。地域コーディネーターの制度の良い部分と課題の両方をお聞きしたいと思います。

伊澤指導主事：地域・学校協働活動の推進委員を地域コーディネーターと呼び、昨年度より地域・学校協働活動を推進しております。本年度は小中学校10校で27名を配置して、各学校で特色ある教育活動にかかわっていただき、ボランティアの方々の連絡や調整を主にしていただいております。また、地域の方との熟議などに地域の方を集める取り組み等も行っております。

まず、よい点としましては、これまで学校の教職員が行っていたボランティアの募集や連絡調整をしていただいておりますので、学校の教職員の負担軽減につながっております。また、学校の教職員には異動がありますが、地域コーディネーターさんがいらっしゃるおかげで、その異動に左右されずに例年と変わらず地域との協働活動が滞りなく進んでおります。

本年度は、特に先進的に津屋崎中ブロックで統括していただくコーディネーターさんを1名お願いいたしました。そのブロック内の3小中学校の地域・学校協働活動をコーディネーターしていただいております。

反面、課題としましては、地域コーディネーターさんの選出というものがあります。現在、各学校のコーディネーターさんの人数は1名から5名と、学校間で差があります。一度に代わられるとこれまでの地域との繋がりが切れてしまいますので、中長期的にどのように推進していくか見通しを持ちながら、学校長のリーダーシップのもと、継続していけるような仕組みづくりが必要であると考えております。

以上です。

市長：地域コーディネーターの課題について学校教育課よりお答えいただきましたが、他の課より関連することがあればお願いします。

八尋課長：郷育推進課の八尋です。学校教育課のほうから、地域コーディネーターに関する分の課題についてお話がありましたが、社会教育的な側面で郷育推進課のほうから少し話をさせていただきます。

郷育推進課では、昨年度、福津市生涯学習推進計画を作成しました。メインテーマは、「世代を超えて 学ぶふくつの心 ひろがる人の和 学びの輪」です。この計画の中にも幾つかポイントを掲げております。重要なポイントとして、まずは福津市がこれまで長年取り組んでまいりました郷育カレッジです。この郷育カレッジは、やはり福津市の生涯学習の大きな柱であると捉えております。その中で、さらに学校運営協議会の地域コーディネーターとはまた別の意味での学校と地域を総合的につな

ぐ地域コーディネーターというようなキーパーソンをつくっていくことが重要であると考えております。

さらにその方々に、負担感が生まれないようにする必要があります。年齢を重ね、やめようとしたときに、次の方が育っているような工夫をするということを計画づくりの途中で課題としてあげられました。

そんな中で、郷育カレッジの場合の現状を申し上げますと、郷育カレッジには運営委員さんが十数名いらっしゃいます。この方々には、「あなたたちがまずもって地域と学校をつなぐコーディネーターです。」ということを私どもからもお願いし、その運営委員さん自身もそのような認識に立っておられます。毎年、まわしよみ新聞や、ワールドカフェといった取り組みを郷育カレッジのコマとしても、3中学校にまわっております。今現在12名の運営委員さんがいらっしゃるのですが、次の運営委員さんを常日ごろから探し、育てていらっしゃるような状況でございます。

この郷育カレッジ運営委員の下部組織に、応援隊みたいなグループがあるのですが、その応援隊の方々を育てながら、そこになるべく若い方も入っていただけるような工夫もされながら、今はとにかくこれを継続させていこうとしております。

それと、もう一つの視点として郷づくりです。学校と深くつながりのある各郷づくりですが、市役所の部課長は、それぞれどこかの郷づくりに担当で入らせていただきます。私自身は福間小学校校区の郷づくりに事務局員的な立場で入らせていただいております。そこでも中学生との関わりのことがよく話にあがります。例えば、先ほどから紹介が既にあります、松林清掃ですね。この環境保全の取り組みには、中学校はすごく関わってくれております。そこには、指導的な立場である地元の大人の人も重要になります。

その地元の方々には、どうしても高年齢化という課題がありますので、どのようにして若者にこの気持ちをつないでいこうかと考えておられるようです。中学生に教えて、中学生がその役を一気に担うわけにはいきませんので、中間層である20代、30代、40代、50代をどう育てていこうかというところに気を配られています。

どの方に何をといった、具体的などころまでは、まだ引き継いでいないのですが、清掃活動だけではなく、先ほど西郷川の話も出ましたが、そのような何かしら楽しい取り組みをする中から後継的な立場の方をどんどん繋いでおります。

地元には福間小学校と福間中学校がございますので、両学校の校長先生もいつも郷づくりの会合には顔を出されます。そこで情報共有しながら、今村委員がおっしゃいました継続していく課題について、非常に気を配られていらっしゃるというのが

現状でございます。

以上です。

市長：ありがとうございます。学校教育課と郷育推進課がそれぞれコーディネーターのことにつきまして、課題を含めてお答え申し上げます。よろしいでしょうか。

今村委員：はい。

市長：ありがとうございます。では続きまして、藤井委員どうぞ。

藤井委員：日頃から学校のため、子どもたちのために関わっていただく地域の方々の思いを感じます。

子どもたちが地域の方々の思いに対し、自分たちも何かを返したいとか、自分たちに何ができるかということを考えたといった話を聞くと、子どもたちに思いが伝わっているということを感じ、本当にすばらしいと思いました。

学校、家庭、地域の総力をあげて子どもたちを育成するということで、学校も地域も子どもたちのためにさまざまなことをしてくださっているので、「家庭」が今よりももっと参画するにはどのようにしたらいいだろうと感じています。

例えば日常生活の習慣やしつけなどは、本来は学校ではなく家庭で行うべきものと考えます。「挨拶が全然できていないので学校で指導してほしい」といった声を聞くことがあります。先生の言うことなら親が言うよりも素直に聞くことができるかもしれないという気持ちで言われているのかもしれませんが。

「家庭でもきちんと言うので学校からも指導してほしい。」ということであれば理解できますが、家庭側の意識改革が少し必要だと感じます。このような家庭での子育ての悩みを学校や地域で相談できる、また、対話できるようにもっていくことも大切だと思います。

市長：そうですね。家庭教育、そして家庭の意識改革についての意見でした。学校や教育委員会で行われていることがございましたらお願いいたします。

伊澤指導主事：学校、家庭、地域に求められる役割ということは、たくさんの機会に校長先生を始め、いろいろな方から話をさせていただいているところです。家庭教育という点では、PTA活動について福間東中ブロック、福間中学校ブロックでスマホ共同宣言の取り組み、どの小中学校でもあいさつ運動の取り組みというものが行われています。

ただ、それがだんだんマンネリ化してきているというところで、福間東中ブロックでは、今年度より4校のPTAの保護者で活性化するにはどのようにしたらよいかという見直しを行っていくという計画があるようです。PTAとして学校ごとにさまざまな取り組みを進めておられますが、これが保護者全員にどれだけ周知したり、啓発できたりしているかということ、なかなか難しい状況があります。

津屋崎中学校では、本年度、保護者のアンケートをとられたそうです。家庭教育についてのさまざまな課題というものが見えてきたようです。これをもとに学校と家庭とでその結果をもとに、どのような取り組みをしていこうかということを検討しているということです。

また、市教委では、家庭教育部会でP T A 1 0校の会長と各学校の教頭が同席して、このような課題について協議して改善を図っていこうとしているようです。

以上です。

市長：学校教育課からでございました。

それでは、郷育推進課からお願いします。

八尋課長：失礼いたします。郷育推進課が関連しているところでも、家庭教育という言葉は盛んに出てまいります。それを少しでも紹介させていただきたいと思います。

まずは、市には青少年育成市民の会というものがございまして、具体的な取り組みとしまして、そこから各小中学校のP T Aが開催されます家庭教育力の向上に向けた研修会への研修補助金を出させていただいて、補助をさせていただいたりしているのがまず一つあります。

青少年育成市民の会自身も、家庭の教育を学校任せだけではだめだね。どのように関わっていったらよいか。と、そのような話をさせていただいておるところでございます。

それから、もう一つ福津市には青少年指導委員会というのがございます。青少年指導委員会の主な仕事というのは、例えば小学生の登下校時、横断歩道や交差点を渡るときの見守り活動です。

青少年指導委員会の方でも、さっきの後継者づくりの話とも絡みますが、もう少し家庭のほうからも顔を出していただくとありがたいよねと。家庭とどのように結びつけていくのか、といった話をしております。高い意識をお持ちの保護者の方もたくさんいらっしゃいますので、その方々にまず出てきていただき、福津市全体で子どもたちを見守っていけるように、取り組みを進めています。

それから、もう一つ、福津市では郷育推進会議という審議会を設けております。ここでは現在、実は家庭教育についてのメインテーマで審議が進められておりまして、昨年度の3月に家庭教育支援に関する提案書ということで、市に二点ほど提案をいただいております。

提案の一つ目は、家庭教育の相談についての整理や周知の徹底です。家庭教育の相談場所は市や県にたくさんありますが、0歳から15歳までで、このタイミングならどこへどのような相談をしているのか、市民の方がまず十分に理解できていないのではないか、ということで、それについて福津市が改善する

ために、その相談の仕組みの整理と告知を徹底しようという提案です。

それから、提案の二つ目はスマートフォンの取り扱いについてです。家庭教育というと今盛んに出てくるのがスマートフォンの取り扱いやインターネットの適正利用についてです。この問題に対して、子どもたちがどのように関わっていくべきなのか、何歳から携帯を持たせるかというような話をよく聞きます。それに関連しまして、子どもたち自身でスマホ利用のルールをつくらせたらどうだろうかと。実際、福岡東中では、スマホ共同宣言など、既に取り組みがあるのですが、福岡市全体でそういったことが何かしらできないだろうかという提案をいただきました。

実は、その二つの提言について、市に任せるだけではないということ、郷育推進会議でも話し合いを既に1回行っております。今年の3月にこの提言を受けておりますが、今年度の郷育推進会議でのメインテーマとして、この二つの提言を実現していくための工夫を話し合っておられます。2回目、3回目と継続して、この1年かけて、市任せではなく、郷育推進会議も参加しながら進めていきたいと考えておられます。

大きく3点ほど家庭教育に関することを紹介させていただきました。

藤井委員：ありがとうございました。子どもの見守り活動に保護者も出てきてほしいという話がありました。危険箇所がどこなのかというのは保護者もわかっているはずですが、実際に見てみないとわからないこともあると思います。その指導委員会などに、保護者も参加ができるような仕組みをつくっていただけたらと思います。文面を見て、参加したいと思うこともあると思います。文面を工夫して、それを見た保護者の人が行きたいと思えば、すごい参加率がよくなるのではないかなと思います。

実際にPTA主催のミーティングなどを各小学校で行っていると思いますが、私も子どもが小さいときは参加していました。例えばPTAの方がお小遣いをテーマにミーティングを開いてくださり、お小遣いをそれぞれの家庭でどのようにあげているか、毎月500円あげている家庭、1,000円あげている家庭、必要がある時にその都度あげている家庭、いろいろな話を聞くことができました。同じ学年の保護者同士だから話しやすいということもあり、『お小遣いについて』や、『ゲームの時間について』など各テーマで話を聞くことができました。そのような会に保護者の方にどんどん来ていただいて、PTA活動や地域の行事への参加に繋がると思います。

市長：ありがとうございました。

それでは、青木委員お願いします。

青木委員：『健全な心は健全な体に宿る』という言葉がありますけれど

も、健全な教育というのは健全な学校施設の中でできると言えるのではないかと思います。豊かな心や学力、体力の育成ということで、子どもたちが安心して学べる、安全な教育環境を整えるということについては、整っていることが大前提であり、大変重要であると考えております。

現在、福津市が抱える問題として、地域によって急激に人口が増え、それに伴い児童生徒数が急増しているというのは皆さん御承知のとおりですけれども、教室不足に対応するための仮設校舎や、運動場や体育館、特別教室などの利用の割り振りなど、通常どおりにはいかない学校現場の状況があると思います。市として様々な対応をしていただいていると思いますし、それに加えて学校の現場の先生方は、様々な工夫や取り組みをされていることだろうと思いますが、今後、児童生徒の急増の動きが、まだしばらく続くのであれば、今の増築やリースだけで対応できるのだろうかとても心配しています。そういうことに関しまして、教育環境のために、市としてどのようなお考えがあるのかということと、市長のお考えについてもぜひお聞きしたいと思います。

市長：それでは、ただいまご意見をいただいたことについて、私の考えについては最後に話させていただきますので、まずは施設面について、教育総務課からお願いいたします。

重富課長：教育総務課の重富と申します。まず、大規模校のハード面についてですが、急増している児童生徒数に見合う教室数の確保をするために、校舎の増築で対応しているというような状況です。例えば福間小学校においては増築、建てかえ、南小学校においてはリース校舎、津屋崎小学校についてもリース校舎という形で対応しています。

これらの対応によって、普通教室数については確保できていますが、図工室、理科室、音楽室などの特別教室については、福間南小学校の図工室を特別支援学級の普通教室へ改修しているなどの現状もあります。

先ほど申しましたように、福間小学校、福間南小学校の児童数が急増しているということで、この後、進学する中学校においても、今後、教室不足が非常に懸念されるというような状況にございますので、抜本的にこれらをどうするのかという解決策を見出すために、現在、基本構想を策定中でございます。

市長：それでは、学校運営面、ソフト面について、市の考えを学校教育課からお願いします。

神山課長：学校教育課、神山でございます。ソフト面あるいは学校運営面について、つけ加えさせていただきたいと思います。

学校内の現場の先生方におきましては、特に大規模校では体育館や運動場、また、特別教室などの使用について、授業時間の割り振りを工夫するなどして、学校運営に当たっていただい

ている現状がございます。

教育委員会の中では、少人数学級や習熟度別学習を支援するための市費の非常勤講師を各小中学校に1名ずつ配置をしております。中学校は昨年度より全校各1名ずつ配置をしておりますが、小学校は全校配置というのができておりませんでしたので、本年度から各校1名ずつではございますが、全部で10名の非常勤の講師の方を配置させていただき、習熟度別学習などを支援させていただいている状況がございます。

それから、特別支援教育を総合的に支援するために、もちろん特別支援学級の学級数もふえている状況もございまして、市費の特別支援教育支援員を大幅に増員させていただきました。昨年度、全員で19名だったところを、今年度は28名配置をさせていただいて、特別支援教育を総合的に支援する体制を市としてもバックアップさせていただいているという状況がございます。

加えまして、学校教育に関する教育相談の窓口の体制につきましても体制強化をさせていただいている状況がございます。昨年度の教育相談の件数は、全体で1,633件ございました。

教育相談員としてかかわっていただいている方々といしましては、教育委員会の教育指導係の中におります教育指導員として非常勤の指導主事3名、主に電話や窓口で対応をさせていただいております。その他に、スクールカウンセラー、とスクールソーシャルワーカーです。スクールカウンセラーにつきましては、市のほうに3人おります。それからスクールソーシャルワーカーにつきましては、本年度から2人体制にさせていただいております。

相談件数の主なものは、やはりスクールカウンセラーへの相談、スクールソーシャルワーカーが家庭を含めて支援をするという相談が、1,633件のうちの大多数を占めております。スクールカウンセラーが相談を受けております件数が1,239件、スクールソーシャルワーカーが323件でございます。このような専門的な支援体制を、ますます今後も充実させていく必要があると考えているところでございます。

どこに相談すべきか分からないことでも、やはり子どものことについては身近な学校に相談をされるということが多いと思いますので、市といたしましても今後、このような専門スタッフを増員したり、時間数を増やしたりと支援体制の工夫をしていきたいと考えているところでございます。

市長：ありがとうございます。青木委員どうぞ。

青木委員：この夏、エアコンの導入ができたということで、子どもたちにとって学習しやすい環境になると思いますし、福間中学校の改築ということで、建てかえの工事に入るという話も聞いており

ます。しかし、人口の推移で、将来的に福間中学校も一学年15クラスの45クラスになると予想されており、もしかしたらそれ以上になるかもしれないという動きもあると思います。学校の施設としては補助金等の問題もあり、教室数も限りがあると思います。昨年の12月に、通学区域の審議委員会で新しい小中一貫の学校を新築するということが望ましいというような答申を出されたと思いますが、そういうことについてどのようにお考えなのかをお伺いしたいです。

また、いずれ人口が減ってくる時期のことも大きな課題になると思います。全国の団地やマンションの経営で、うまくいつている地域についての番組をこの前拝見したのですが、分譲する時期を何年かずつずらして、人口が減らないような取り組みをしている地域や、あるいは子どもたちやお年寄りの方々に対するケアが充実しているような区域をつくることで、人口の流出をうまく調整しているような地域が紹介されていました。将来的に学校の子どもの数が減っていくということを考えるのと一緒に、減らないようにしていくためにはどのような政策が必要なのかというようなことまで考える必要があると思います。

市長：そうですね。まず、二つの点ですね。生徒数が急増している地域、それから高齢化という言葉は余り好きではございませんが、少子高齢化が進んでいる地域がございます。

高齢化等の課題につきましては、先ほど教育総務課長もお答えさせていただきましたが、今年度は教育基本構想を策定しております。これは専門のコンサルに委託をしております、この中では仕様にもたしか入っていると思いますが、新設校の建設といいますか、開校することも含めての調査を委託しております。

本市といたしましては、正式な目標人口は定めておりませんが、確実に想定される人口の推計をできるだけ作成し、議会のほうにも提出します。これのデータに基づきまして、小中一貫校や、義務教育学校も視野に入れながら考える必要があります。どのような規模の小学校か、中学校か、小中一貫校なのか、建設するとしたらどこに建設するべきなのか、を現在調べ中です。今年度中にはと思っておりますが、調査結果を私のほう、また、教育長のほうにいただきまして、市としての方針を教育部含めたところで決定していかなければならないと思っております。

先週の土曜日は、日蔭野地区の大夏祭りがありました。日蔭野地区も想定されました人口よりもふえて、日蔭野地区のエリアだけで人口が約6,100人です。日蔭野地区の周辺も開発が進んでおります。福間南小学校校区は特に、普通の夏祭りでは考えられない規模の夏祭りが運動場で展開されておりました。私もずっといましてので、学校のことをよく質問されまし

た。今お答えしたようなことを正直に、質問をされる保護者の皆様には私の口で伝えていたところでございます。

冒頭で言いましたように、学校の周りの環境、つまり川や山や海などの学校の敷地だけにとどまらない学びの場は、学校の先生にも賛同いただきまして、地域の方や大学の方に御協力いただいております。最初の御質問いただきましたように、環境が整っていることが大前提であり、大変重要であるという認識でございます。現在の教育基本構想の調査内容の動向もしっかり踏まえながら、そして昨年いただきました審議会の答申も踏まえながら、市としての方針を教育委員会と相談させていただきながら、できるだけ早い時期にお示しする必要があると思っております。

並びに、今度は逆になかなか児童数が伸びない、減っている学校でございます。上西郷小学校区では英語教育に特化した取り組みをしております。その特色ある小規模校の教育ということで、児童数並びにその地域の学校ならではの取り組みを進めていただいております。勝浦小学校につきましては、これも御承知のように、理想的な地域と学校が連携した学校づくり、学校運営ということで『地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰』を受けております。特別認可制度を導入している学校ではございますが、やはり児童数は減っております。福津市の一つの大きな財産が勝浦校区であります。今後、より魅力ある学校の運営を行う必要があります。それから市長部局としては、学校へのアクセスであったり、勝浦校区にあります世界遺産であったり、地産地消の取り組み等々、地域の皆様ともしっかり協議、話し合いをさせていただきながら、勝浦校区の地域振興並びに自然環境の整備、観光施策の取り組みをいただいて、人が移り住む取り組みが必要だと思えます。

本市が『SDGs 未来都市持続可能なまちづくり』に選ばれたいろいろな要因については話させていただきましたが、特に津屋崎小学校区は、10年前からの取り組みで古い町並みの維持や、古民家の再生、ここを利用いたしまして事業を起こす起業家支援など、いろんな職種を持った新しい方が移り住む取り組み等も成功いたしました。津屋崎小学校区も児童数は増えているのですが、10年前と比較して人口の世代間分布はほとんど変わらず、人口も増えているので、本当に理想的な持続可能な地域となっています。行政的な取り組みとして、ハード面の整備ではなく、人材開発等の人が寄ってくる魅力のある施策を10年前に行うことによって、10年たった今も成果として少子高齢化が進んでいない地域となりました。

この取り組みを、SGDs 未来都市の一つのモデル事業として国のほうに提出をして、それが認められたわけであります。少子高齢化が進んでおります上西郷小学校区や、勝浦小学校区

のほうにもいろいろ魅力的な環境と、なかなか住みづらくなって住まなくなった、すばらしい日本家屋が残っておりますので、こういったところの空き家再生、古民家再生等を考えております。これらの先進的な本市の取り組みを、今年には九州大学の政策デザイナー、大学院とも連携しております。古い家、空き家となったところに新しい移住者が、財政面からも入ってきやすい取り組みを研究していただいております、これについても時期が来ましたら発表されます。こういったものを取り入れることによって、新たな若い子育て世代が勝浦小学校区に入ってくることを何とか狙えるのではないかと考えています。

勝浦小学校区は世界遺産があるすばらしい環境なので、大規模な住宅開発をするわけではありません。今ある住宅環境を生かしつつ、そこに若い子育て世代が入ってくることにより児童数が減らないといった取り組みを市長部局としては、しっかり行っていかなければいけないなと感じております。

ただいま、教育長を除きます教育委員の皆様から、『学校、家庭、地域の総力をあげた豊かな心、学力、体力の育成について』また、『学校と郷づくりのパートナーシップの構築について』をテーマに御意見をいただいたところでございます。

それでは、教育長からも御意見をいただきたいと思えます。

柴田教育長：総合教育会議は教育大綱の基本目標をテーマに意見交換ということでありますので、私も大変勉強をさせていただきました。ありがとうございました。

今、本市ではSDGsで未来都市の指定を受けて、まちづくり、人づくりを推進しているところでございます。その人づくりの基盤である教育の分野でいろんな御支援をいただくことに感謝していますし、教育行政を担う教育の責任者として身が引き締まる思いでございます。

今年の4月に行われました全国学力・学習状況調査の結果等も届いたばかりで、若干の学校間の差はありますが、福津市の10校の小中学校で全体としては福岡県と全国の平均を上回っております。コミュニティ・スクールを基盤にした学校経営をずっと進めており、地域の方が学校の中に入ってきて、学校とともに子どもを育てていくという体制を、今後もより深みのある形で続け、それぞれの学校の特色を出した学校経営をしてもらいたいというのが私の思いでもあります。防災教育で津屋崎小学校や津屋崎中学校が評価されたり、コミュニティ・スクールで地域協働の学校経営のモデル校として勝浦小学校が評価を受けたり、今年からは上西郷小学校が国が指定する英語教育の研究開発校ということで、子どもの英語力、対話力を育てていこうとしておりますので、それぞれの学校で特色を出していきたいと考えています。

と言いましても、マンモス校化する二つの小学校と一つの中

学校を、今後どのようにして教育環境を整えていくかというのが一つの大きな課題であると思っています。コミュニティ・スクールの発展はもちろんですが、私は教師力の育成が重要になってくるとも考えています。やはり子どもは大人の影響を受けて成長していくものだと思っていますので、そういう意味で、良い教師である前に、良い人間であってほしいと思いますし、子どもにとって、とても魅力的な教師であってほしいと思っています。そうではないと、子どもと教師、あるいは教師と保護者、あるいは学校と地域が信頼関係を築けないと思います。まずは教師が自分自身をいかに磨いていくかということを一つのテーマにしてやっていけたら良いのではないかと思います。

それから、教育とはもちろん授業等の学校教育をしっかりとしていただくということが大前提なのですが、これからは、ソサエティ5.0の社会になると言われ、持続可能な開発のための教育（ESD）を育むためにはそれ以外のことも必要になってきます。これからの時代、子どもたちに求められる力について、東京大学の秋田先生は、責任ある行動をとる力、対立とかジレンマを克服する力、新たな価値を生み出す力、をいかに見つけるかということをよく言われます。

そのためには、各学校の体験学習の充実を一つの大きなテーマにする必要があると思います。体験学習では、子どもが主体的・能動的に関わり、深く学ぶ機会があると思います。学校行事を含めて、教室では学べないような体験をいろいろ仕組んでもらいたいと思います。例えば現在、中学校では、トークフォークダンスで、地域の人と会話をする機会を設けたりしていますので、そのようなことをさらに活性化してもらいたいと思っています。その中で、新たな自分の可能性に子どもたち自身で気がついて、そこを伸ばしてほしいと考えています。

教師の育成と先ほど言いましたが、これから子どもたちに関わる教師は、教師自身が自分の子どものころに体験した学校教育ではないことも教える必要があります。子どもの頃にこのように習ったから、同じように教えるというわけにはいきません。教師も子どもも含めて、今までしたことのない体験を学校教育の中にいかに仕組んでいくかということと呼びかけていきたいと考えています。

市長は対話ということも大切にされていますので、教育委員の方々といろいろな教育問題を語り合いながら、あるいは学校の教師、校長たちとそういう話をしながら、これからの時代に求められる力を備えた子どもたちをいかに育てるかということを考えていきたいと思っています。

市長：ありがとうございます。

SDGs 未来都市に選定されたこともございますし、これか

らの教育施策、SDGsの推進等もある中で、今協議を行ってきましたが、副市長からも御感想と何か御提言等がありましたらいただきたいと思います。

副市長：皆さん、どうもありがとうございます。持続可能なまちづくりを進めていくための鍵は、まさに『次の世代』ですから、この教育こそが持続可能なまちづくりの基盤となります。本日のお話は本当にありがたいものでした。

私がしたいお話は三つあります。一つ目は、高校生や大学生についてです。二つ目は、福間中学校の取り組みについてです。三つ目は、郷づくりについてです。本日は郷づくり支援課の課長でもあり、地域振興部の理事の辻さんも参加してもらっていますので、そちらからも少しコメントをいただきたいと思っています。

まず一つ目の高校生・大学生についてです。御案内していますように、今年度、市に青少年活躍推進係という新しい係をつくりました。やはり子どもたちにとって身近な先輩が地域に関わっている姿を見て、自分たちもどうやって地域に関わっていくのかの想像ができると思います。現在、青少年活躍推進係の取り組みについては検討中ではありますが、これはとても重要な取り組みだと思っています。

二つ目の福間中学校の件ですが、今お手元に資料をお配りしました。これこそコミュニティ・スクールだからこそできた取り組みでして、御紹介したいと思います。

資料の下に参考とありますように、市内の中学校は1年生でまわしよみ新聞を行います。2年生でトークフォークダンスを行い、地域の方ともつながります。では、3年生では何をしようかといったときに、郷づくりを中心にした地域の方々から、自分たちが住むまちを自分たちで考える機会にしてみようか、と御提案があり、それを学校の地域連携担当の先生もお受けとめになって、地域の方と学校と一緒にこのプログラムができました。3年生全員に7月4日のオリエンテーションを踏まえて、私が7月8日、50分の授業の中でSDGsについてお話をしました。その中で、これから10年後も住み続けたいまちづくりにするための福津の今の課題を、子どもたちに考えてもらいたいということで、

<福中チャレンジ1>

『若者が地域活動に積極的に参加しているまちにする』

<福中チャレンジ2>

『日本一食品ロスが少ないまちにする』

<福中チャレンジ3>

『誰もががスポーツに日常的に取り組んでいるまちにする』

<福中チャレンジ4>

『福岡県内でナンバーワンの地域防災力を誇るまちにする』

<福中チャレンジ5>

『市民による環境保全活動が世界一盛んなまちにする』

<福中チャレンジ6>

『若者が地元でいきいきと働き、経済が循環するまちにする』

の六つのチャレンジのテーマを提示し、選んでももらいました。またこれ以外でも、自分がやりたいものがあったら考えてほしいと提案をしました。これは全て福津市の課題でもありますし、SDGsのゴールにつながっているものです。

授業が終わり、集計をしました結果がA4の横の資料です。一番多いものは、<福中チャレンジ3>『誰もがスポーツに日常的に取り組んでいるまちにする』でした。二番目に多いものは、<福中チャレンジ2>『日本一食品ロスが少ないまちにする』でした。授業の中で恵方巻の写真を見せたこともあり、食品ロスについて、子ども達の関心も多くなったのではないかと思います。いずれのテーマにも関心を持ってくれていて、自分で選んだテーマについて、夏休み中情報収集をしてくれています。

9月に、テーマについて地域の課題を、地域の方々や市の職員から学んで、9月28日には地域の方も一緒になって中学3年生全員がアイデア出しのワークショップを行います。その後、授業を使いながらアイデアをまとめて提言をしてくださるということになっています。偶然なのですが、ちょうど今年の3年生は、福津市が合併した年に生まれた子どもたちです。その子どもたちが、自分たちの10年後のまちをつくることを、今から考えるということは非常に意味のあることだと思います。世界が取り組んでいるSDGsの目標の枠組みを使って取り組んでいますので、コミュニティ・スクールらしいこの取り組みがほかの地域にも広がるといいと思っています。

お配りする予定はなかったのですが、そのときの授業の様子が裏に書かれております。「未来を描く」のところで、福津市出身の先輩たちの話を聞いてみようということで、福間中出身の29歳の方と23歳の方のお二人に動画を撮ってもらって、子どもたちに聞いてもらいました。これがやはり子ども達には一番響きました。福津を飛び出してバルト三国のエストニアで起業している中嶋さんからは、やりたいと思ったことをやりなさいと言ってくれました。関西の大学院生の森さんは、社会を変えていく実践研究家になりたいというようなことで、実際に認知症の方と一緒に働くカフェをつくっている体験について話をしてくださいました。森さんは、夏休みは福津に戻ってきて、福津チャレンジ部という、子どもたちと一緒にまちを変えていく取り組みをしている方です。そういう先輩たちが身近にいるということは子ども達にとって、とても勇気づけられるものだと思います。

このように、青少年活躍推進係でこれから取り組む高校生、大学生たち、あるいはその少し上の先輩たちが、小学生、中学生の育成に関わって下さったら、ますます持続可能なまちになるのではないかなと、大変期待をしています。

三つ目の郷づくりの話についてです。このように、学校だけで行うものは、ある意味模擬的な要素が多いと思います。より、現実的な場で、子どもたちが参加するとなると、もちろんボランティアや職業体験というものもあるのですが、やはり郷づくりの協力が必要になってくると思います。

昨年度、福津の八つの郷づくり推進協議会は、10年間の郷づくり計画を策定されました。その中でも福間郷づくりは、郷づくり計画の検討の段階で、中学生たちに声をかけてくださりました。全ての郷づくりではないのですが、そのような取り組みを広げていただくと、本当の意味で実社会での世代間交流ができて、子どもたちも担い手としての自覚もでき、先ほど教育長からお話があったような責任ある行動力や、対立を克服する力、新たな価値を見出す力というのが出てくるのではないかと思います。

辻さんのほうからも郷づくりと学校の件で、何かお感じになっていることがあったらお願いします。

辻課長：郷づくり支援課の辻と申します。

地域の課題は、今やはり自治会の未加入者の問題や、高齢化に伴うことで、現在地域活動をしている方がいらっしゃらなくなったときに、誰がどうするのかというように、持続性がなかなか地域の中では見えてない、というのがあります。

そんな中で、中学生、高校生もそうなのですが、今の30代、40代の若い世代の方々が何らか地域に関わるようなことを各郷づくりの中で取り組んでいかなければ、なかなか継続的なコミュニティというのでできていかないのではないかと考えております。

中学校の未来会議で、＜福中チャレンジ1＞『若者が地域活動に積極的に参加しているまちにする』というものがありますので、一つの提言や、実際の活動が始まってくると非常に地域の方にも元気を与えるし、新たな視点が加わってくるのではないかと考えているところです。

以上です。

市長：ありがとうございます。

それでは、時間が来ております。委員さんから御質問や御意見について担当並びに私のほうからも述べさせていただいて、副市長のほうからも市長部局として提言と紹介をさせていただきましたので、最後の教育長の御提言、御意見も含めまして、大変貴重な協議となったことを感謝申し上げたいと思っております。本当にありがとうございました。

終了の時刻が過ぎておりますけども、最後に、時期を置いての教育総合会議でありますので、特に私のほうに何か御意見がいただければと思いますけども、委員の皆様ございませんか。

それでは、ないようでございます。これにて協議事項については終わらせていただきたいと思います。進行をお返しします。

4 閉会の宣言

榊参事：では、市長部局と教育委員がなかなか一堂に会する場がないところ、貴重な機会をどうもありがとうございました。事務局からの連絡事項は何かありませんか。

では、以上をもちまして、平成31年度（令和元年度）第1回総合教育会議を終了させていただきます。本日もさまざまな御意見をいただきありがとうございました。